



Title	大学における日本語学習支援ウェブサイト調査（1） ：国内の大学を対象として
Author(s)	難波， 康治； 相川， 大知； 義永， 美央子 他
Citation	多文化社会と留学生交流：大阪大学国際教育交流センター研究論集. 2023, 27, p. 127-134
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/90852
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大学における日本語学習支援ウェブサイト調査（1）

— 国内の大学を対象として —

難波 康治[†]・相川 大知[‡]・義永 美央子[§]・角南 北斗^{**}・韓 喜善^{††}・瀬井 陽子^{‡‡}

要 旨

本報告は、オンライン上での日本語自律学習支援を目指して作成したウェブサイト（以下、サイトと略す）「OU 日本語ひろば」の現状における課題を念頭に、国内外の同様の取り組みについて調査を行い、その結果を報告するものである。今回は、その（1）として、国内の国立大学および私立大学計18校における20のサイトについての調査を行った結果を報告する。調査結果から、多くの大学で、その運営主体とサイト自体の設置形態、オリジナルコンテンツ（記事、動画、アプリなど）、キュレーション（他サイトへのリンクや紹介）などさまざまな取り組みがなされてきたことがわかったが、一方で、サイト自体での双方向性（SNSや掲示板など）はあまりみられず、その運営が個人に依存している場合が多くみられ、オンライン上の学習リソースの更新やサービスの継続が困難になっている現状も明らかになった。

【キーワード】 オンライン、自律学習支援、大学ウェブサイト、コンテンツ

1 はじめに

「OU 日本語ひろば」は、これまでの報告にもあるとおり（義永他 2020, 2021, 2022）、25言語を対象に自律学習を支援する施設（SALC）として2019年に発足した「OU マルチリンガルプラザ」における外国語としての日本語のユニットをオンライン上で補完する学習支援サイトとして2019年よりサービスを開始した。以降、日本語を母語としない大学構成員のためにオンライン上で以下のような学習支援を模索してきた。

- 大学内における言語学習支援組織（SALC）である OU マルチリンガルプラザの活動についての情報提供
- 学内外の日本語教室やプログラムの情報提供

- 図書館の留学生用図書を中心とした学習リソースのキュレーション
- 自律学習のための学習支援リソースの提供

その現状と課題については、別稿（義永他 2023）にも述べられているとおりである。そこでは自律学習支援の中でのオンラインの役割について、リソース集積と参照という面での利点があげられているが、一方で、コロナ禍を経験する過程で大学の DX 化が進んだこともあり、改めて独自のオンラインサービスを提供する意味についても再考が必要であることが指摘されている。

また、ネット上で公開され、自由にアクセスできるリソースも増えている中で、独自のコンテンツを提供する意義についても検討する必要がある。

[†] 大阪大学国際教育交流センター准教授

[‡] 大阪大学大学院文学研究科

[§] 大阪大学国際教育交流センター教授

^{**} フリーランス

^{††} 大阪大学国際教育交流センター特任講師

^{‡‡} 大阪大学国際教育交流センター特任助教

このような問題意識に基づき、2021年度より国内・国外の大学においてオンライン上の語学学習支援がどのように行われているかについて調査を開始した。本稿では、国内調査の一部について報告する。

2 調査

2-1 調査の概要

今回の調査は、OU 日本語ひろばを開発していく過程で、必要な情報を得るために国内外の同様の学習支援サイトを検索する必要がある、徐々に資料を集めるところからはじめたものである。その後、今年度RAの協力を得て詳細な調査に移行した。なお、調査の期間は、2022年6月～10月である。

調査の方法については、基本的にはサイトを閲覧して、公開された情報にアクセスし、あらかじめ設定した調査項目がどのようになっているかを観察した結果を収集したものである。研究グループ内でも調査の途中でミーティングを重ねてその結果について議論し、必要な調査項目を追加し、サイトに戻って再調査を行った。そのため厳密なサンプリングを行ったとは言えず、パイロット調査的な形であるが、OU 日本語ひろばの今後のあり方を検討するという目的には合致していたと言える。

2-2 調査項目

サイトを調査するにあたっては、まず検討するべき項目についてこれまでの課題を踏まえて研究グループ内で議論し、以下の項目について調査することにした。

- (1) サイトの基本情報
 - ① サイト名
 - ② URL
 - ③ 運営主体（独立サイトか、部局サイトの一部か）
 - ④ サイト開設時期 and/or 最新の更新日
 - ⑤ 使用言語
 - ⑥ 対象（留学生だけか / 研究員等も含むか / 日本人学生も含むか / 未来日学生を含むか）
 - ⑦ 利用者制限（ログインが必要か）
- (2) オリジナルコンテンツ（文字テキスト・動画・その他）の有無と内容
- (3) キュレーション（他のサイトや学習リソースの紹介、リンクなど）の有無とその内容
- (4) 問い合わせ窓口の有無（アドレス、フォーム、

掲示板など）

- (5) SNS (Facebook、Instagram、Twitter など) へのリンクの有無
- (6) 学内・学外の日本語教室に関する情報提供
- (7) 日本語自律学習サポート（支援室など）に関する情報提供やオンライン予約（面談や会話練習などの予約が可能か）
- (8) その他の特徴

2-3 調査対象の選定

本調査に先立って、国内大学の日本語関係の広報サイトについての調査を行った。その中で、学習コンテンツのあるサイト、ないしはリンクなどの情報をもとに学習支援サイトと考えられるものを取り上げた。今回は、まず本学と同様の規模や状況の大学を中心に調査を行ったが、過去の研究報告から学習支援を行っていると考えられるサイトを検索し、対象に加えた。さらに公立大学、私立大学についても個別の報告がある大学について調査を行い、情報を追加した。

ただし、今回の調査は、上記の通り大学の国際交流に関する広報サイト調査から始まったものであるため、全ての日本語学習支援サイトを網羅したものではなく、漏れがある可能性がある。

表1に、調査した大学（50音順）のサイト名、運営主体（組織ないしは個人）およびURLを示す。

3 調査結果と分析

上記の調査対象について、調査した結果のうち、注目すべき項目を取り上げて報告する。

3-1 サイトの基本情報

3-1-1 サイトの形態・運営主体

サイトの形態としては、独立したドメインをもち、大学や部局のサイトからはリンクされているものを独立サイト、大学や部局のドメインの配下のサブディレクトリにあるものを部局のサイトとした。その結果、図1に示すように、独立サイトは11、部局サイトは9と、相半ばする結果となった。運営主体との関係では、独立したサイトの多くが科研や独立したプロジェクトに基づくものが多いことがわかった。

また、独立したサイトとして運営されているものには、大規模な日本語コンテンツやデータを擁する

表1 調査の対象サイト (大学名の50音順)

大学名	サイト名	運営主体	URL
愛知淑徳大学	日本語学習支援サイト	愛知淑徳大学山内研究室	http://ksky.fc2web.com/
桜美林大学	日本語学習プログラム・学習サポート	桜美林大学日本語学習プログラム	http://www7.obirin.ac.jp/nihongo/support/index.html
大阪大学	OU 日本語ひろば	国際教育交流センター	http://hiroba.ciee.osaka-u.ac.jp/
大阪大学	高度外国語教育独習コンテンツ	言語文化研究科言語社会専攻 / 日本語専攻、サイバーメディアセンター	http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/flc/jpn/jpn_data/index.html
岡山大学	日本語自習支援サイト	岡山大学基幹教育センター	https://www.ipec.okayama-u.ac.jp/language/japanese/
京都精華大学	言語学習支援室	言語学習支援室	https://www.kyoto-seika.ac.jp/foreign/language-language-commons.html
千葉大学	国際教育センター	千葉大学国際教育センター	https://cie.chiba-u.ac.jp/support01.html
筑波大学	日本語・日本事情遠隔教育拠点	筑波大学日本語・日本事情遠隔教育拠点	https://www.intersc.tsukuba.ac.jp/~kyoten/
東京外国語大学	JPLANG	東京外国語大学留学生日本語教育センター	https://jplang.tufs.ac.jp/
東京外国語大学	東京外国語大学言語モジュール	東京外国語大学大学院21世紀COEプログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」	http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/ja/
東京大学	日本語教育センター 日本語学習情報	東京大学日本語教育センター	http://www.nkc.u-tokyo.ac.jp/study_info/index_j.html
東京都立大学	mic-J 日本語教育 AV リソース	東京都立大学人文科学研究科人間科学専攻 日本語教育学教室 西郡研究室	http://nihongo.hum.tmu.ac.jp/mic-j/index.html
東京農工大学	Action TUAT!	東京農工大学グローバル教育院 (EAGL)	https://tuataction.com/
徳島大学	日本語学習のためのサイト Websites for Learning Japanese Language	徳島大学 高等教育研究センター 学修支援部門国際教育推進班	https://www.isc.tokushima-u.ac.jp/01_about_itn_center-03_educational_support-japaneselearningsite
富山大学	日本語学習支援サイト RAICHO	富山大学国際機構	http://www3.u-toyama.ac.jp/raicho/
三重大学	日本語学習支援サイト	三重大学国際交流センター	https://www.mie-u.ac.jp/international/center/courses/japanese.html
明治学院大学	教養教育センター 日本語相談室	明治学院大学教養教育センター 日本語相談室	https://mgu-cfla.cc-town.net/ls/japanese
山口大学	やまぐち日本語学習支援サイト	山口大学留学生センター赤木研究室	http://j-support.isc.yamaguchi-u.ac.jp/
立命館アジア太平洋大学 (APU)	言語自主学習センター	APU 言語自主学習センター	https://salc82.wixsite.com/apusalc
早稲田大学	わせだ日本語サポート	早稲田大学日本語教育センター	https://www.waseda.jp/inst/cjl/students/support/waseda/

サイトが多く見られる。その中でも、コースウェア的なプログラムを提供しているものと、個人の興味に訴える学習リソースを多く掲載しているものとに分かれる。「OU 日本語ひろば」は、現在のところ後者の傾向が強いといえる。

一方、部局のサイトの一部として運営されているサイトは、表紙のみの1ページで完結しているもの

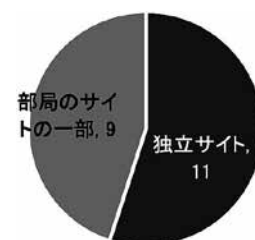


図1: 運営主体

が多く、内容的には日本語教育相談室の紹介になっているものが多い。その中で教材・リソースへのリンクや、相談の予約へのリンクのあるものも存在する。

サイトの更新については、すべてのサイトが更新日時を掲載しているわけではないが、すでに最終更新から時間のたっているものが散見された。特に、個人（研究室）によって運営されているサイトや、科研やプロジェクトに基づいて制作されたサイトにおいて、更新が止まっているものが目立った。

3-1-2 対象

今回調査対象としたサイトのほとんどが、対象を自校の留学生、教職員や研究員などの大学構成員としている。

日本語学習支援サイト RAICHO（富山大学）のように、ターゲットを富山大学の留学生に限定することで、サイトに掲載する情報を絞り込み、利用者が必要な情報に容易にアクセスできるようにするという点に重点を置いている（濱田 2017）としているものもある。

3-1-3 使用言語

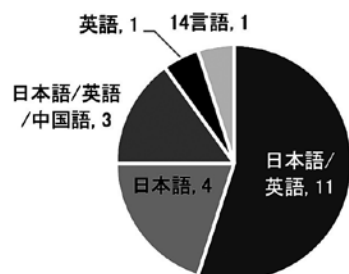


図2：使用言語

図2に示すように、日本語・英語併記が11サイト、日本語のみが4サイト、英語のみ（表紙ページ）が1サイトなのに対して、3言語以上に対応しているサイトは4サイトのみであった。地方自治体など行政機関のサイトについても多言語対応が議論されている（宮田 2020）が、多くの日本語学習支援サイトは2言語のみ対応となっている。これは、大学という高等教育機関であり、英語が通用するという建前になっていることが影響していると考えられる。一方、言語が限定的であったり精度に問題があったりするにせよウェブブラウザの機能として自動翻訳が可能になってきているため、今後はウェブコンテンツの言語については問題が少なくなってくる可能性

はある。

3-2 オリジナルコンテンツ

3-2-1 テキストベースのコンテンツ

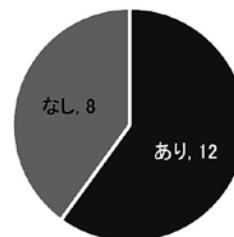


図3：オリジナルコンテンツ（テキスト主体）

図3に、主にテキストを主体にしたコンテンツを掲載しているサイトの割合を示す。オリジナルのコンテンツには、系統的な学習を自律的に行うように、コースとしての日本語学習プログラムをウェブ上で提供するもの（JPLANG、大阪大学高度外国語独習コンテンツなど）と、学生が大学で生活する際に日本語が必要となるであろう場面（研究室における会話など）を想定して制作した教材や語彙リストなどがある。

また、東京外国語大学では、JPLANGと東京外国語大学言語モジュールの二つのサイトが稼働しているが、JPLANGは初中級を対象にした総合的な教材であり、ログインすることで利用者が自身の記録を残すことも可能である（閲覧にはログインは必須ではない）。

3-2-2 動画ベースのコンテンツ

動画コンテンツについては、掲載していないサイトの方が多い（図4）。

東京都立大学では、早くから動画に着目した学習サイトを開発しており（西郡 2002, 2015）、mic-jという動画を中心とした学習サイトを提供している。上記の東京外国語大学については、言語モジュールの方のみ会話の動画を提供している。

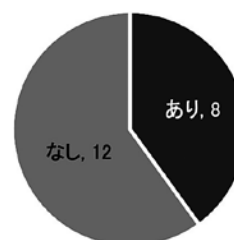


図4：オリジナルコンテンツ（動画を含むもの）

東京農工大学では、「マルチモーダル」なコミュニケーションを目指した（本郷・山崎・上原 2018）キャンパスでの日常的なコミュニケーション場面を動画化して解説したサイトを制作している。

動画を含んだオリジナルのリソースとしてのコンテンツを掲載していないサイトにおいても、学習相談のシステムやキャンパス内の紹介などの動画を掲載しているサイトもある（早稲田大学他）。

3-2-3 学習支援のためのコンテンツ

学習方法そのものに焦点を当てたコンテンツは、今回の調査では少なかったが、学習ブログや、日本語に関するエッセイ、個別の言語技能に関する記事を掲載しているサイトが少数見られる。その中で、学習方法に焦点を当てたものとして、APU 言語自主学习センター（SALC）のコンテンツが挙げられる。ここでは、SALC としての活動を紹介するとともに学習方法に関するコラム、学習プラン、ポートフォリオのフォーマットなどがWeb上で提供されている。

OU 日本語ひろばにおいても、メニューの「教材や学習方法を知りたい」のもとに「学習コラム」として大阪大学の学生や、国際教育交流センターの教員による日本語の学習方法や学習項目についてのコラム記事を掲載している。

3-3 キュレーション

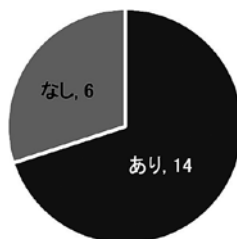


図5：キュレーション

他のサイトのコンテンツや学習リソースの紹介やリンクなどを掲載しているサイトは多いが（図5）、それらについて解説しているものは、今回の調査ではOU 日本語ひろばのみであり、リンクのみの場合が多い（大学のサイト以外では「NIHONGO eな」のようにリソースを紹介するサイトが以前より存在する）。自習用教材を掲載しているサイト（JPLANG、高度外国語教育独自コンテンツなど）では、直接のリンクはない。サイトの設置部局あるいは形態や、役割（教材提供か、学習相談などの活動か）によっ

てサイトの構成も異なっている。

3-4 サイトの双方向性

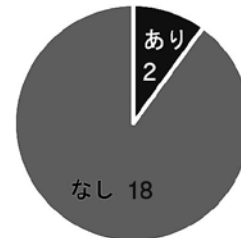


図6：問い合わせ窓口

サイトの利用者が問い合わせを行ったり、コメントを記入したりという機能があるかどうかについては、2つのサイトを除いて、コメントや問い合わせを直接行うことができるサイトは見当たらなかった（図6）。

これは、学内の利用者を対象としているサイトが多く、相互の連絡についてはLMSなどの学内のプラットフォームを用いている場合が多いためである。外部に開いたフォームを掲載すると、本来の対象者以外の訪問者からサイトの目的に合致しない問い合わせがあったり、イタズラやクレームがあったりする。そうしたことを回避しているのではないかと考えられる。また、問い合わせなどの対応窓口を設けることが人的リソースなどの点で難しい場合が多いことも反映されている可能性がある。

問い合わせとは別に、相談や日本語パートナーの予約がオンラインからできるサイトはいくつか見られた。直接のフォームが設置されているサイトが6つ、予約できるサイトへのリンクが2つあり、特定の目的のフォームは設置されている場合があることがわかった。これは、問い合わせ窓口同様学内の利用者を対象としているために、既存の学内のプラットフォームを利用しているものと考えられる。

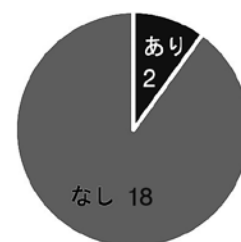


図7：外部SNSへのリンク

Twitter、Facebook、Instagram、LINE など、外部のSNS プラットフォームへのリンクやアカウントを掲

載しているサイトは2つ（筑波大学日本語・日本事情遠隔教育拠点、APU 言語自主学习センター）のみであり、その他のサイトでは見られなかった（図7）。外部のSNSを利用しているサイトについても、サイト更新などの情報提供のみ行っており、双方向でのコミュニケーションはとられていない。

3-5 学内・学外の日本語教室に関する情報提供

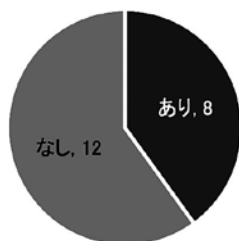


図8：学内の日本語プログラム・学習支援室などへのリンク

本学のように大規模な総合大学においては、学内の複数の部局や組織、さらには自主的なグループによる日本語プログラムや学習サポートが提供されている場合が多いと考えられる。今回調査したサイトでこのような学内プログラムや支援の情報を提供しているサイトは8つである（図8）。ただし、その多くが、サイトを管理している部局や大学全体の授業としてのプログラムへのリンクであり、その他の部局や自主的な活動などについてはほとんど掲載されていない。

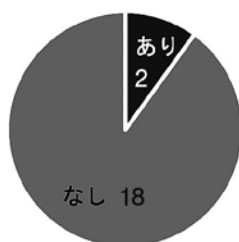


図9：学外の日本語教室などへのリンク

一方、学外のプログラムや支援については、大学の構成員が自治体の国際センターなどや近隣地域が主催している居住者を対象とした様々な日本語教室や支援グループを利用している場合があるため、そのための情報提供がなされているかを調査した。しかし、今回調査したサイトでこのような学外の教室やプログラムのリンクを掲載しているのは、OU 日本語ひろばを含む2つのみであった（図9）。

3-6 日本語自律学習サポート

SALCのサイトとして機能しているサイトでは、コンテンツの提供よりも、SALCの活動の紹介や相談の仕組みの説明など、対面をベースとした活動に学習者を導こうとするものが多く、オリジナルの学習コンテンツについては、少ない傾向がある（図10）。自律的な学習のデザインやトレーニングについては、ワークショップなどを通じて対面で行われる場合が多く、またオンラインでもZoomなどのプラットフォームで行われる場合が多いためであると考えられる。このような活動の中で、独習コンテンツを置いたサイトへのキュレーションがうまく機能すれば、コンテンツを制作する意義も高まると考えられる。

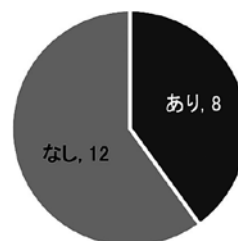


図10：日本語自律学習サポートの情報提供

4 まとめ

以上、日本語学習支援サイト調査の結果から見られた傾向について述べたが、「大学における日本語学習支援サイト」とは言え、一つ一つのサイトの作られた事情はその制作時期や組織などの事情によって異なり、その役割も異なっている。大きく分類すると、以下の3つの機能に集約されている。

- ① SALCや相談室の紹介
- ② リソース提供
- ③ さまざまな言語学習情報へのリンク（教室、リソース）

各項目の円グラフ図からもわかるように、紹介やキュレーション、学内外の教室に関する情報提供が、高い割合を示している。

オリジナルのコンテンツについては、いわゆる教材的なリソースは近年では少なくなっているように見えるが、これは、必要性が減少したというより、サイトを維持するために、時代に合わせたアップデートが不可欠であり、Web上の技術や仕組みが陳腐化するスピードも早くなっていることから、運営上の負担が増えていることも原因の一つだと考えられる。また、国際交流基金の「みなと」「Marugoto Plus」や、

生活日本語を目的とした「いろいろ 生活の日本語」、文化庁の「つながるひろがるにほんごのくらし (Tsunahiro)」など、公的な機関からさまざまな日本語学習支援のためのオンラインリソースが提供されるようになってきていることも影響しているかもしれない。

学習相談や言語パートナーなどの活動の上でも、Web上で学習リソースの情報が提供されていることは意義がある。ただし、リソースの開発には人的、財政的な負担が伴うために、大学における学習リソースとして何が必要なのかを考え、それを大学間で共有・相互利用するなど、よりよい仕組みを考える必要がある。

一方で、双方向的な機能や、SNS などを通じた、サイト内におけるオンライン上のコミュニティは、調査の範囲ではほとんど見られなかった。これは、3-4、3-6でも述べたように、学内の既存のプラットフォームを利用しているためと思われるが、一方で、日本に来る前に海外から問い合わせをしたい場合や、プラットフォームを利用できない大学構成員に対してどのようにリーチするかという課題もあると考えられる。

最後に、サイトのデザインそのものについて少し触れたい。サイト制作の技術的な側面については調査項目自体には挙げていないが、閲覧時に目についた点について言及する。サイトのデザインについては、更新が続いているものについては、スマートフォンの画面対応などもなされているが、更新の止まっているものの多くはスマートフォンに対応しておらず、学生の利用実態に合わなくなっている可能性がある。

また、サイト調査の過程で、サイトの存在自体が探しにくい場合が多くあり、大学の国際関係のサイトなどを閲覧しても、利用者が利用しやすいナビゲーションができていない場合がしばしば見受けられた。学生の場合、オリエンテーションなどで広報されている場合もあるが、多くの大学構成員のアクセスしやすいweb上の場所を検討する必要がある。

なお、2-3でも述べたとおり、今回調査することができたサイトは、大学の国際交流に関する広報サイトからリンクされていたものに限られており、今後さらに対象を広げて調査し、共有できるデータとして意味のあるものにすることが必要である。すでに開始している海外の同様のサイトの調査とともに、国内

の情報についてもさらに充実したものにしたい。

参考文献

- 伊藤秀明, 小野正樹 (2019) 「日本語・日本事情遠隔教育拠点報告 2019—第二期の総括と第三期に向けて—」 筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育論集35筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター, pp. 33-44
- 伊藤秀明, 小野正樹 (2021) 「日本語・日本事情遠隔教育拠点報告 2021」『筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育論集』37 筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター, pp. 125-133
- 内丸裕佳子, 坂野永理 (2020) 「カリキュラム変更に伴う岡山大学全学日本語コース Web システムの改訂」『岡山大学全学教育・学生支援機構教育研究紀要』5 岡山大学全学教育・学生支援機構, pp. 257-270
- 黒田史彦 (2012) 「留学生支援システムの構図」『早稲田日本語教育実践研究』刊行記念号, pp. 7-23
- 小松由美 (2015) 「優れた留学生の戦略的獲得のための情報発信について—国費学部留学生を呼び込む大学ホームページの検討—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集 (Bulletin of Japanese Language Center for International Students)』no. 41 東京外国語大学留学生日本語教育センター, pp. 17-28
- 小松由美 (2017) 「留学生は大学ホームページをどう見ていたか?—国費学部留学生の調査から探る戦略的情報発信—」ウェブマガジン『留学交流』75 独立行政法人日本学生支援機構, pp. 9-16
- 寅野 滋 (2000) 「留学生はどんな情報を求めているか—留学生相談室ホームページアクセスログ分析結果—」『東京大学留学生センター紀要』(10) 東京大学留学生センター, pp. 9-16
- 徳間 晴美, 山内 薫 (2021) 「大学における正課外の日本語学習支援のあり方を考える—日本語相談室の立ち上げと今後の展望—」『明治学院大学教養教育センター紀要: カルチュラル』明治学院大学教養教育センター, pp. 41-53
- 西郡 仁朗 (2002) 「日本語教育用 AV リソース公開サイト『mic-j』について」『日本語研究』21号, 東京都立大学国語学研究室, pp. 117-134.
- 西郡 仁朗 (2015) 「日本語教育用 AV リソース公開サイト『mic-J』: 2014 年の状況」『人文学報』503号, 首都大学東京都市教養学部人文社会系 pp. 1-19
- 西納春雄, 木下康光, 北尾謙治 (2002) 「留学生支援のための情報提供サイトの構築」*Doshisha Studies in Language and Culture*, 5-2 同志社大学言語文化学会, pp. 315-335
- 二瓶恭輔, 野本弘平 (2021) 「大学ウェブサイトにおける情報探索時の日本人学生と外国人学生の注意配分」『日本知能情報ファジィ学会 ファジィ システム シン

- ポジウム 講演論文集』37日本知能情報ファジィ学会, pp. 31-35
- 濱田美和 (2003)「日本語学習者のための『日本の歌』サイトの開設」『日本語教育方法研究会誌』10-2 日本語教育方法研究会, pp. 10-11.
- 濱田美和 (2014)「日本語教育プログラム：日本語学習支援サイト RAICHO 報告 (2013年4月～2014年3月)」『富山大学国際交流センター紀要』1 富山大学国際交流センター, p. 59
- 濱田美和, 後藤寛樹, 深澤のぞみ (2004)「日本語学習支援サイトの役割と効果—大学における総合的な日本語学習支援体制の構築とサイトの開設—」『富山大学留学生センター紀要』3 富山大学留学生センター, pp. 1-14.
- 本郷智子, 山崎真弓, 上原真知子 (2018)「マルチモーダルなコミュニケーションに重きを置いた日本語支援サイトの開発」『日本語教育方法研究会誌』25-2 日本語教育方法研究会, pp. 36-37.
- 本郷智子, 山崎真弓 (2019)「マルチモーダルなコミュニケーションに重きを置いた サイト“ACTION TUAT”の評価分析」『日本語教育方法研究会誌』26-2 日本語教育方法研究会, pp. 32-33
- 宮田 玲 (2020)「日本における自治体ウェブサイトの多言語化の現況と課題」『通訳翻訳研究』20-1号, pp. 1-24.
- 森川結花、永須実香、春名宣明、北村達也 (2010)「日本語読解学習支援サイト“tutor.bunko”の構想と開発：総合的な技能養成を目指した方向性とそのコンテンツ」『甲南大学情報教育研究センター紀要』9 甲南大学情報教育研究センター, pp. 1-22
- 義永美央子, 角南北斗, 瀬井陽子, 難波康治 (2020)「日本語の自律学習を支援するオンラインプラットフォーム「OU日本語ひろば」の開発について」『多文化社会と留学生交流』第24号, pp. 27-34
- 義永美央子, 瀬井陽子, 難波康治, 角南北斗, 韓喜善 (2021)「日本語学習支援の全学的な展開に向けて—OU マルチリンガルプラザと OU 日本語ひろばの実践報告—」『多文化社会と留学生交流』第25号, pp. 55-61
- 義永美央子, 難波康治, 瀬井陽子, 角南北斗, 韓喜善 (2022)「日本語学習支援の全学的な展開に向けて—OU マルチリンガルプラザと OU 日本語ひろばの実践報告—」『多文化社会と留学生交流』第26号, pp. 41-53
- 義永美央子, 瀬井陽子, 難波康治, 角南北斗, 韓喜善 (2023)「大阪大学における言語学習支援の展開 —ポストコロナを見据えて—」『多文化社会と留学生交流』第27号, pp. 85-92